

2023年度自己評価・自己点検 ～9領域のカテゴリー別結果と分析及び課題 前回自己評価との比較

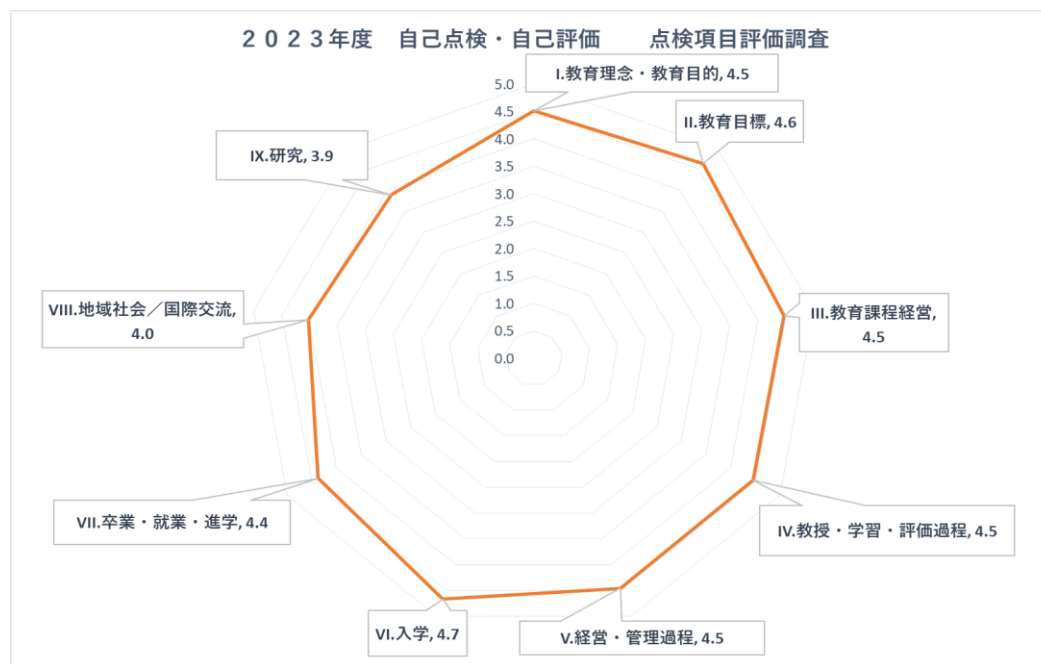
厚生労働省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己評価指針作成検討委員会報告書」に基づき、本校では2023年11月に自己点検・自己評価のアンケートを行いました。年度の途中ではありますが、新カリ3年目の運用にむけて、現状での到達点と課題を明らかにするために実施しました。対象は教員9名、回収は9名分で回答率は100%でした。この結果を分析し管理会議、教員会議で意見交換を行いました。評価は5段階の「当てはまる」を5、「やや当てはまる」を4、「どちらともいえない」を3、「あまりあてはまらない」を2、「当てはまらない」を1として得点化しました。また、2019年度の自己点検・自己評価と比較し、2024年1月自己評価委員で意見交換をし、重点課題と具体策を確認しました。

	カテゴリー	2023年度 平均点	2019年度 平均点	自己点検分析	課題
I	教育理念・教育目的	4.51	4.14	2022年度カリキュラム改定の取り組みの中で教育理念・教育目的の検討をすすめた。設置母体の理念を踏まえ、課題であった教育理念を成文化できた。	
II	教育目標	4.63	3.93	前回評価では3.93であった。2022年度カリキュラム改定の取り組みの中で教育目標を検討した。教育目標は新たに本校の教育観でもある「多様な価値観の尊重」「集団的な成長」をめざした目標を設けた。また社会の人口構造、疾病構造の変化を踏まえ、「地域住民」「暮らし」「多職種との協働」をキーワードにした目標に改めている。教育理念・教育目的、教育目標が一貫している。	
III	教育課程経営	4.47	4.03	2022年度カリキュラム改定を受けて、教員全員で教育課程を編成した。看護の対象を「生活者」としてとらえ疾病や障害をSDH（健康の社会的決定要因）の視点から総合的に理解することを目指したカリキュラム、また従来からの本校の強みであるフィールドワークや当事者や事例から実態に迫る学生の「経験」からの学ぶことを主軸においている。この中で『学生の看護実習体験の保障』は平均点4.46と高い。実習病院である設置母体との連携、指導環境が整っているといえる。しかし、 臨地実習はカリキュラム改定により臨地実習時間が減少し、更にコロナ禍での臨地実習期間の短縮等による看護技術力、コミュニケーション力への影響について評価する必要がある。 『教員の研究・教育活動の充実』では、継続的にFD研修に取り組みスパーバイザーを招き、授業リフレクションをに取り組んでいる。専門領域の担当教員として知見を広げるための各教員が研修・学習会に参加し自己研鑽に努めている。共に育ち合う仲間として教員間での学び合える風土が強みである。	1) 卒業時の到達度評価（看護技術力、コミュニケーション力） 2) 教員業務の精選、事務への業務シスト
IV	教授・学習・評価過程	4.45	3.83	前回評価より平均点が上がった。中でも『シラバスの提示や学習への指導は養成所全体として一貫性がある』項目が下位尺度得点5.0と最高得点であった。新設科目を含め、表記内容が教員間で一貫しているといえるが、 効果的な支援のためにも学生側の活用を促進することが課題である。 また、 授業評価の内容を見直し、回収率改善にとりくんでいるが成果がでていない。授業評価結果に基づく授業の改善に充分反映できていないことが課題といえる。	3) シラバスの効果的な活用と学習支援的活用 4) 授業評価の促進と活用、魅力ある授業の追及

V	経営・管理課程	4.46	3.84	<p>前回より中長期計画の立案が課題となっている。老朽化した施設は常に改装が必要となり、計画的に施設内の学習環境整備に取り組んだ。2019年以降全館Wi-Fiスポットの設置、玄関の改装、全館エアコンの入れ替え、トイレの改装を実施した。更に教室等の環境整備が課題である。組織体制では各教員が主体的に経営課程に参画できる体制があることや運営に関する最高議決機関としての評議員会を年4回開催し、適正な学校運営を進めている。学校関係者評価は2018年度実施して以来行っていなかったが、新カリ運用3年後のカリキュラム評価を関係者評価とともに実施することが課題である。</p>	5) 2024年度の学校関係者評価の実施と公表
VI	入学	4.67	4.15	<p>入学者定員は2019年以降定員を充足。近年の受験者総数は2019年(102名)をピークに減少。以降の4年間の平均受験者は80名である。一般受験者の辞退率が60.6%と高いことが特徴。募集活動においては2020年以降、コロナ禍で困難なこともあったが、本校では感染対策を講じ旺盛に取り組んだ。山梨は18歳人口の減少、県外大学への進学率は全国の中でも高い県である、女子は県内への進学が多いのが特徴である。本校の教育の魅力を発信するとともに、中長期的な視野での募集計画、関連団体、関係職種と協働で募集活動を進める必要がある。</p>	6) 県内の人口減少にうちかつ中長期的な募集計画
VII	卒業・就業・進学	4.38	3.27	<p>前回平均点より大きく上昇。卒業生動向では2019年以前の県内平均就職率は80%である。2022年より4年間で卒業生145名を送り出し、県内就職者は127名、県内就職割合は89%と高く、看護職員として山梨医療を支えている。設置母体の平均就職割合は62%。2022年度における就職割合は77%と4年間の中で最も多い。卒業生の就職先との活動状況は設置母体内では把握の機会はあるが、設置母体以外の卒業生の活動状況は把握できていないこともあり、サブカテゴリーでは「卒業生の活動状況の統計的な把握」が平均得点が4.11と低く、引き続きの課題である。同窓会活動及び運営を軌道にのせ卒業生の動向を把握する必要がある。</p>	7) 卒業生とつながる学校の在り方
VIII	地域社会/国際交流	4.02	3.49	<p>カリキュラム改定で地域の多様な場所で暮らす人々の理解とヘルスプロモーション、健康要求に応える看護を講義、実習で強化した。臨地実習は病院だけでなく、福祉施設、助産院、患者会活動、労働体験など地域の多様な場で学んでいる。また教科外活動で地域の河川清掃、祭りなどでの地域交流があるが看護養成所として地域のニーズの把握が課題。国際交流では、下位尺度5項目のうち3項目「国際的視野を広げるための環境」「帰国学生や留学生の受け入れ体制」「留学や海外へ就職する学生に対応した体制」が占め、前回評価と同様低い。前進したものは「国際的視野を広げるための授業科目の設定」である。「世界の言語」の科目では外国の文化に触れる機会となり、また「国際看護学」はカリキュラム改定を機会に授業内容を大きく変え、山梨で生活する外国人の健康と生活を知るフィールドワークは国際的視野を広げる機会を得た。今後ニーズ把握、授業評価が課題である。</p>	8) 学校周辺の地域ニーズを把握 9) 山梨の在留外国人の健康ニーズの把握国際看護学の授業評価
IX	研究	3.89	3.30	<p>前回同様最も低い結果である。毎年、学会発表をしているが、教員が研究活動に取り組む機会が少ないことが課題である。研究発表での財政支援の環境はあるが、時間的な環境への保障は、養成所としての課題である。</p>	10) 研究ニーズのある教員への支援

< 2023年度自己評価からみえた本校の課題 >

- 1) 卒業時の到達度評価（看護技術力、コミュニケーション力など）
- 2) 教員業務の精選、事務への業務シスト
- 3) シラバスの効果的な活用と学習支援
- 4) 授業評価の促進と魅力ある授業の追及
- 5) 学校評価・自己評価を前進 学校関係者評価の実施と公表
- 6) 人口減少に打ち勝つ長期的な募集計画
- 7) 卒業生とつながる学校の在り方
- 8) 学校周辺の地域のニーズ把握
- 9) 山梨の在留外国人の健康ニーズの把握
- 10) 研究ニーズのある教員への支援



< 2024年度重点課題 >

1. 学校評価・自己評価の前進	
具 体 策	1) 学生側の評価を充実 授業評価の促進と臨地実習評価の導入 2) 講師団会議の設置に向けた準備 3) 学校関係者評価の実施 2025年1月下旬 自己評価委員会立ち上げ・自己評価・分析 2025年5月 第1回学校関係者委員会の開催 2025年7月 ホームページ公表 学校関係者評価報告書編集委員会立ち上げ 2026年3月 学校関係者評価報告書完成
	2. 卒業生とつながる学校
	1) 卒業生の学校へのアクセスのしやすさ ・学校ホームページを充実し卒業生コーナーの設置 ・卒業生の登録システムの導入 2) 相談窓口の充実 3) 情報提供